

## ペットと飼い主が幸せに共存できる社会を目指して Aiming for a society where pets and their owners can coexist happily

チーム：Happet  
服部未来、越智明日海  
指導教員 増井淳

創価大学 経済学部 経済学科 増井ゼミ

キーワード：ペット、共同飼育、動物愛護団体、共存

### 1. はじめに

日本には多くの飼い主のいない犬や猫が存在しており、これが動物保護施設や殺処分の問題につながっている。一方で、ペットを飼いたいものの、責任や時間的制約に不安を感じる人々も多くいる。こうした背景を踏まえ、私たちは共同飼育という新しい形で、ペットと飼い主が共に幸せに暮らせる環境を提供することを目指す。

### 2. 現状分析

日本では、多くの犬と猫が飼い主のいない状況である。State of Pet Homelessness Project (2022)によると、現在の日本において犬と猫の数は総計1833万匹であり、そのうち飼い主のいない犬と猫は228万匹(12%)いる。犬や猫の数が増えると殺処分が余儀なくされ、現在も大切な命が奪われている。保護施設にいる犬と猫に新たな飼い主が増えれば幸せに暮らしていけるのではないかと考えた。だがペットを飼いたくても飼えない人がいる現状もある。「ペットに関するアンケート【複数回答可】」(2023)によると、ペットを飼わない理由として「責任を持って世話をする自信がない」が最も多く46.3%、「旅行に行きにくくなるから」が41.1%とあげられている。そこで、時間的拘束やお世話に対する不安や悩みを解消し、飼い主もより良い環境で飼えるようになることで、ペットを飼う人を増やせるのではないかと考えた。

### 3. プラン概要

ペットを飼うと心が癒やされ、幸せな気持ちになることから、ペットを通じてより多くの人に心

の安らぎを感じてもらえることができる。これらを踏まえて、私たちはペットも飼い主も共に幸せになれるような共同飼育サービスを提供する。サブスクリプション型ペット共同ケアサービス「Happet with」である。この事業は、新しく犬や猫を飼おうとする人たちに向けたビジネスだ。飼いたいと思っても最後まで世話できるか不安、留守にしづらいといった理由から飼うことができない方が、安心して2人一組の共同でペットを飼うことができる。以下、プランの手順となる。

#### ①利用者の個人情報とライフスタイルの入力

ウェブサイトで行う。ペットを飼うことができる経済的自立や時間があるか把握をするため。

#### ②マッチング

現在いる地域で、場所や年齢などの情報から利用者が共同で飼育するパートナーを選択。

#### ③共同飼育者同士の連携

マッチングした利用者は、サイト内にあるスケジュール表で飼育する曜日や月を設定し、チャット機能で連絡を取り合う。お互いに飼育できない日が発生した場合はこちらで一時預かるため、緊急時でもペットのケアに困る必要はない。



図1 関係図

### 4. プランの優位性

日本ではまだ導入されていない「共同飼育」という新しい形態のペット飼育サービスであることだ。従来の一人が全責任を負う飼育方法とは異なり、協力してペットを飼うことで、ペットを飼いたいけれど負担が大きいと感じる人でも参加できるという新しい価値を提供する。共同飼育では、飼育費用の分担やスケジュール調整が可能のため、ペットの世話が難しい状況でも他の飼育者に任せることができ、安心して利用できる。特に、高齢者や長期間家を空ける人にとっては、ペットの世話の負担を軽減し、ペットに十分な愛情を注ぐことが可能だ。また、ペットカフェとは異なり、責任感を持ちながら生活を共にすることで、将来的にペットを完全に飼うことをシミュレーションできる点も特徴だ。さらに、ペットの年間飼育費が高額であるため、費用を分割し、月額負担を軽減する仕組みも提供する。

## 5. 実現方法

まず東京都を対象に動物愛護団体と提携し、共同飼育サービスを提供する。東京都は保護活動団体が最も多く、保護されている犬や猫の引き取りを促進するため、まず1つの愛護団体との提携を開始し、段階的に活動を拡大する。トレーナーを確保し、利用者とペットが安心して生活できるようにトレーニングやしつけ方法を提供する。また、ウェブサイトを開設し、テスト運用を行いながらサービスの実現可能性を高める。動物愛護団体との契約書では、利用者が責任を持って飼育できる条件を明記し、安心してペットの譲渡が行えるようにする。サービスの実行期間は、まず6~12ヶ月の準備期間で助成金や補助金の申請、動物愛護センターとの提携、ターゲット層の調査を行い、テスト運用を通じて課題を確認する。SNSを活用した宣伝も行い、その後1~3年の本格展開に向けてサービスを拡大し、利用者の課題に対応する。最終的には、5年以降にペット用品の販売、保険プラン、イベントなどを追加し、共同飼育者の負担を軽減しながら事業を持続的に成長させていく。

## 6. 市場性

日本ペットフード協会(2023)によると、2022年時点でのペット市場は約1.7兆円規模に達しており、この市場にはペットフード、獣医療、ペット関連グッズ、ペット保険などが含まれる。近年、ペットの高齢化が進んでいることや、ペットを「家族の一員」として扱う消費者が増加していることから、ペット関連支出の増加が期待できる。ペット市場の規模は年々増加傾向にあり、今後も需要が拡大していくと予測。「ペットに関する意識調査」(2021)によると、今後犬を飼いたい・飼ってみたいという割合は34.2%で、同様に猫は26.8%と飼いたい意欲がある人はいる。このデータをもとに、日本の成人人口を1億人と仮定すると、犬を飼いたいと考える人数は約3,420万人、猫を飼いたいと考える人数は約2,680万人と推定される。このことから、日本におけるペットに対するニーズが大きいことを示すことができる。

## 7. 終わりに

本提案は、1匹でも多くの犬と猫の飼い主がいること、また飼い主自身が大きな負担なくお世話することができる。そうして飼い主のいないホームレスの犬と猫の数を減らしていき、ペットがより多くの愛を感じ、幸せな共存を目指していく。

## 7. 参考文献

- State of Pet Homelessness Project (2022)「JAPAN State of Pet Homelessness Project」  
[https://cms.stateofpethomelessness.com/s3media/2024-01/sophjapan.pdf?VersionId=ZgX\\_bZeGL7gC1pVK5aDWwj8nG7Cilgq8](https://cms.stateofpethomelessness.com/s3media/2024-01/sophjapan.pdf?VersionId=ZgX_bZeGL7gC1pVK5aDWwj8nG7Cilgq8)
- 株式会社プラネット(2021)「ペットに関する意識調査」  
[https://www.planet-van.co.jp/shiru/from\\_planet/vol152.html](https://www.planet-van.co.jp/shiru/from_planet/vol152.html)
- NEWSCAST(2023)「ペットを買った経験がある人は約9割」  
<https://newscast.jp/news/8713446>